

給付金10万円で出版社設立 佐々木良さん(36)



高松市の出版社「万葉社」社長。作家。現在は親家の経営者一部と、1940年に兄に継いだ東京オリンピックとの関係について執筆中。1日に本を1〜2冊、新聞を7紙読む生活を送る。

自分で本作り、社会貢献

四国 人 歴

コロナ禍で支給された
地方内の特別支援給付金
を機に、2020年
に出版社「万葉社」を高
松市内で設立し、出版業

1冊の「合和万葉集」が10年に豊島美穂(同級)と
友を呼んだ。「国民全土」の設立に携わり
鶴がもたらした地方内での
んなことができるんだ
と、若い人を集めたか
ったと笑顔で語る。
大塚市出身。中学、高
校時代を高松市で過ごし、京都精華大芸術学部
で建築を学んだ。卒業後、住居と職を定める視
た。数年苦しめられた
去作業が勧められてい
ばれた建築現場の職
業大塚の不法投棄」と呼
った。書誌では「国内
の歴史や風土について

初の著作「築地町がやき
るまで」を東京の出版
社から刊行した。「てし
ま」の読み方の由来に
ついてを解るなら、「ア
ートの島」だけではな
い歴史や風土について
も伝えた。
だが、本は万葉になる
まで1冊も売らなかった。
なかつた。「中学高校で
野球に打ち込み、勉強は
苦しかった」という。初
めて売った本は、建築家
で人間国宝の近村さくみ
さんの著書「色一年」。
紙花を使った装束を「色
をいたかく」と表現する
感性に惹き、「こんな優
しい本を読みたい」と本
格的に読書を始め、やが
て古文書まで読みこなす
ようになった。
「四国の歴史をテーマ
にした作家活動続ける

うち、東京の編集者との
やりとりで限界を感じる
ようになった。「香川の
文化史には、人々土地を
理解する編集者が必要。
それなら自分で本を作り
たい」と、20年8月に「
人々株式会社「万葉社」
を設立した。
21年3月に出版した
「合和万葉集」は、厚文
が当時の由来になった鶴
花の歌の詞を始めた。1
冊ずつ集書された文字
は、縦書きでハローを添
る女性編集者に依頼。金
色の装飾の装束などの
挿しにもこだわった。イン
ターネットで全国から注
文が相次いだ。
5月には古事記で日本
神話の神祇の記録とされ
る出雲天皇の項目をまと
めた「合和古事記」を出
版。「香川の文化史」と
納税と社会貢献したい」
と、2冊「納税1冊目」
を目標にまい進する。
【西本紗紀子】

MAINICHI
新毎日
8月27日(金)
2021年(令和3年)
発行所：大阪市北区南田3丁目4番5号
〒530-8251 電話(06)6345-1551
毎日新聞大阪本社

令和3年8月27日
四国新聞 24面(香川)で掲載していただきました。
ありがとうございます。